様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 １１ 日現在

機関番号：３３９１７
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ０４３８２

研究課題名（和文）米国の高等教育機関におけるラティーノ学生受入れのための制度的・教育的支援策

研究課題名（英文）Institutional and Educational Support Services for Latino Students in U.S. Universities and Colleges

研究代表者
牛田　千鶴（Ushida, Chizuru）

南山大学・外国語学部・教授

研究者番号：４０３１９４１３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,800,000円

研究成果の概要（和文）：現地調査を通算5回実施し、ニューヨーク市立大学、プリンストン大学、ラトガース大学、イーストロサンゼルス・カレッジ、カリフォルニア州立大学サンベルナルディーノ校、サンディエゴ州立大学、インペリアルバレー・カレッジ、テキサス大学エルパソ校、エルパソ・コミュニティカレッジ、ニューメキシコ大学、マイアミ大学、フロリダ国際大学、プエルトリコ大学、サグラド・コラソン大学等を訪問し、専門家との意見交換や資料収集を行った。米国ラテンアメリカ学会年次大会でも発表し、ラティーノ学生在籍率の高い高等教育機関による支援策の詳細を紹介しつつ、それらがラティーノの進学率向上に貢献してきたことを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：The field surveys (5 times in total) have been conducted at the City University of New York, Princeton University, Rutgers University, East Los Angeles College, California State University at San Bernardino, San Diego State University, Imperial Valley College, University of Texas at El Paso, El Paso Community College, University of New Mexico, University of Miami, Florida International University, University of Puerto Rico, University of Sagrado Corazon, etc. In each survey the exchange of opinions with the specialists and the data collection have been carried out. The result of the research was presented at the XXXV International Congress of the Latin American Studies Association. At the session, the author indicated the contribution of the support programs offered by the Hispanic Serving Institutions to the improvement of the college enrollment rate for Latino youths.

研究分野：ラテンアメリカ地域研究・教育学

キーワード：ラティーノ　HSI　高等教育　進学率向上　支援策　マイノリティ教育

１．研究開始当初の背景

(1) 国内外の研究動向および位置づけ

今から 30 年ほど前に米国コロンビア大学から刊行された Latino College Students (M.A.Olivas ed.,1986)は、1960 年代以降のラティーノ学生をめぐる大学進学状況や教育問題を、当時としては初めて体系的にまとめた研究書として注目を浴びた。その後もハーバード大学の G. Valdés やカリフォルニア大学の P. Gándara、テキサス大学の C. Delgado Gaitán ら、自身もラティーノ（ナ）である研究者らによって実績が重ねられてきた。そうした研究の主たるテーマは、ラティーノ学生たちの学習達成度や進学率・卒業率の低さに関わる現状分析と、将来に向けたエスニック集団全体としての教育促進の課題についてであり、今日までその問題意識に大きな変化は見られない。

一方、日本国内においては残念ながら、高等教育段階におけるラティーノ学生の状況についてとり上げた研究は、ほぼ皆無である。本研究に真摯に取り組み、その成果をまとめ、公表することが、日本のラティーノ研究の進展に必ず貢献しうるものであると考えた理由もそこにある。

(2) 着想に至った経緯

全米最大のラティーノ人口(約 1,400 万人）を擁するカリフォルニア州では、2014 年 1 月にブラウン知事が提案した予算案において、同年 3 月にはラティーノが州総人口の 39%に達し、白人を抜いて州最大の人種・エスニック集団を形成する見込みであることが示された。筆者はこれまで、ラティーノ集住地域であるカリフォルニア州、ニューメキシコ州、アリゾナ州、テキサス州、フロリダ州、ニューヨーク州、ニュージャージー州、イリノイ州などを訪問し、初等・中等教育レベルにおけるラティーノ児童・生徒への教育支援のあり方について、公立学校での取り組みを中心に研究を重ねてきた。とりわけ彼（女）らの母語運用能力の保持を重視することで、英語により測定される学力をも向上させようとするバイリンガル教育プログラムに注目し、事例研究を進めてきた。

本研究では、これまで約 20 年間従事してきたラティーノの教育に関する研究成果を踏まえ、次なる段階として、高等教育部門においては一体どのような取り組みが展開されてきたのかについて、制度面および教育上の支援策に着目し、ラティーノ学生の進学や学業促進に成果を挙げてきた特色ある事例を探り、その理由について明らかにしたいと考えるに至った。

２．研究の目的

アメリカ合衆国では今や、総人口の 6 人にひとりがラティーノ（ラテンアメリカ系住民）である。だがその一方で、大学進学率および卒業率は、アジア系や非ラティーノ系白人に比べ、依然として低い。「米国の高等教育機関におけるラティーノ学生受入れのための制度的・教育的支援策」と題する本研究は、近い将来、米国若年層のマジョリティを占めることになるであろうラティーノの若者に注目し、彼（女）らの社会上昇に深くかかわる高等教育に焦点を当て、受入れのための制度面での整備、ならびに入学後から卒業に至るまでの教育面での支援を中心に特色ある取り組みを選定し、成果の度合いやその背景について分析・評価することを目的とする。

ラティーノの若者たちの高等教育機関への受入れに関する研究としては、進学率の低さの解消を目的とした制度面での支援策（アファーマティブ・アクションや奨学金支給制度を含む）をテーマとするものが多く、卒業までの教育面での支援策をより具体的に分析対象とする研究は米国内においてもあまり例を見ない。本研究の学術的特色・独創性は、まずもってその点にある。

３．研究の方法

ラティーノ学生を多く受け入れている高等教育機関を訪問し、具体的な支援策に関する資料を収集するとともに、専門家との意見交換や各種プログラム担当者への聞き取り調査等を行う現地調査を主たる研究方法とした。現地調査は 3 年間を通じ、長期休暇を利用して計 5 回実施した。

訪問対象は、Hispanic Serving Institutions と称される、在学生の 25%以上がラティーノである高等教育機関を中心に選択した。また面談対象としては、移民研究ならびにマイノリティ教育の専門家、高大接続（アウトリーチ・プログラムを含む)、メンタリング、奨学金、勉学支援、キャリア支援関連部署等の担当者、およびラティーノ学生支援団体関係者等を重視し、聞き取り調査を実施した。

４．研究成果

(1) 現地調査における研究成果

＜平成 27 年度＞

ニューヨーク市立大学では、シティカレッジの Juan Carlos Mercado 教授（学際研究部長)、クイーンズカレッジの Helen Gaudette 氏（グローバル教育推進室長）ならびに SEEK プログラム（地域の優秀なマイノリティ高校生に大学への進学を促し支援するプログラム）担当者 3 名との面談を実現できたほか、大学院センター内にあるラテンアメリカ・カリブ・ラティーノ研究所で資料収集を行った。

プリンストン大学では、社会学部の Douglas Massey 教授が統括責任者を務めるラテンアメリカ系移民研究プロジェクトのシニア・リサーチャーである Magaly Sanchez 氏、ならびに新移民研究調査プロジェクトのディレクターである Monica Espinoza 氏と意

見交換を行った。
ラトガース大学では、ラティーノ芸術文化センターのCarla Ortiz氏と面談し、貴重な情報および資料を得ることができた。
加えて、上記現地調査に先立つ7月13～17日には、オーストラリア(メルボルン市)で開催された「国際カトリック大学連盟」年次総会に出席し、アメリカ合衆国から参加するカトリック大学代表者らから、ラティーノ学生への具体的支援策に関する情報を収集し、意見交換を行なった。
研究開始年度ということで、まずは研究全体の基盤強化としての文献収集、人脈構築を重視し、所期の成果を得ることができたと考えている。
＜平成28年度＞
カリフォルニア州南部にあるHispanic Serving Institutionsを中心に訪問し、ラティーノ・コミュニティに対する進学サポート、奨学金申請や在学中の勉学支援に至るまでの、多面的な制度的・教育的支援策に関する資料収集および聞き取り調査を行なった。具体的な訪問先は、イーストロサンゼルス・カレッジ、カリフォルニア州立大学サンベルナルディーノ校、サンディエゴ州立大学、インペリアルバレー・カレッジ等である。
全米屈指のラテンアメリカ系移民集住地区に位置するイーストロサンゼルス・カレッジでは、Chicana/o Studies Department学科長のEddie Flores 教授との面談の後、Office of Institutional Effectiveness and Advancementで部長を務めるRuben Arenas氏ならびに同部署リサーチ・アナリストのBryan Ventura 氏ほか、ラティーノ学生支援プログラム関係者ら7名と面談を行った。
カリフォルニア州立大学サンベルナルディーノ校では、教育学部内に設置されているラティーノ学生支援組織 LEAD を訪問し、傘下にあるLEAD Education Projects に関わるMonica McMahon 氏や Office of Student Engagement のスタッフの方々、Association of Latino Faculty, Staff & Students のRosemary Zometa 会長、Center for International Studies and Programs のPaul Amaya センター長、Educational Opportunity ProgramのYadira Ortiz氏、ならびに非合法移民の学生に奨学金等の支援を行なうDREAMer’s Resource and Success CenterのMaria Barragan-Arreguin 氏等に貴重な聞き取り調査を実施することができた。
メキシコとの国境の町（カレクシコ）にあるサンディエゴ州立大学インペリアルバレー校では、ラティーノ学生の勉学支援に携わるNorma Aguilar氏、ならびに移民の子どもたちのバイリンガル教育や数学の学習プログラム開発等を専門とする Gregorio Ponce 教授と面談し、聞き取り調査を行なった。
インペリアルバレー郡教育局へも訪問を行い、Migrant Education Program シニア・ディレクターの Sandra Kofford 氏に聞き取り調査を行なった。移民家庭の子どもを学校に通わせるための説明会や両親への忍耐強い働きかけなど、現場で展開される様々な困難や課題についての具体的な情報を得ることができた。
貧困家庭のメキシコ系移民の若者たちに高等教育の機会を提供してきたインペリアルバレー・カレッジでは、各種のラティーノ学生支援関連部署で関係者に聞き取り調査を実施した。なかでも Student Support Service Program ディレクター、Dolores Diaz-Cañez氏からは、連邦政府からの助成金により運営される Latino 学生支援プログラムにおける成果に関する貴重な資料をいただけたほか、Extended Opportunity Programs and Services コーディネーターの Olga Artechi 氏からは、小学校から大学進学に至るまでのきめ細かなコミュニティ支援や家庭単位での支援に関し、その実情を詳しくご教示いただいた。
数値的な成果を示す資料については十分に収集できたとは言い難いものの、様々なプログラムの概要に加え、現場で奮闘する担当者の苦労や現実的課題については多くの貴重な情報を得ることができたのは現地調査ならではの貴重な収穫であった。
3月にはテキサス大学エルパソ校、エルパソ・コミュニティカレッジ、ニューメキシコ大学を訪問した。
高大接続をより円滑に進めるための大学側からの進学支援やコミュニティへ出向いての説明会の開催、コミュニティカレッジから4年制大学への編入支援、入学後の勉学支援やメンタリング、各種奨学金申請支援、エスニック・アイデンティティの肯定的保持のための居場所づくり等、いずれの調査対象校においても、実に多様な取り組みがキャンパス内外で展開されていることが確認できた。
ラティーノ人口がマジョリティと化している地域におけるコミュニティカレッジのブリッジ機能の重要性について再認識するとともに、ラティーノ・コミュニティ内にある高校とコミュニティカレッジの連携強化の動向についても新たな情報を得ることができ、大変貴重な訪問となった。
なかでもニューメキシコ大学では、奨学金担当部署（Student Financial Aid）のBrian Malone 所長ならびにDavid Wright 副所長と面談した後、ラティーノ学生への勉学支援に携わる Marcial Martinez 氏（Education Opportunity Center / TRiO Program 担当）や Shannon Saavedra 氏（University Advisement Center / Advisor Trainer）に聞き取り調査を行った。また、Student Programs Specialist である Alejandro Mendiaz-Rivera氏より、ラティーノ学生の居場所やアイデンティティ保持の拠り所となっているラサ・センター（El Centro de la Raza）の活動概要ならびに取組成果に関し詳細な説明を受けた。トランプ政権下でのラテ

ィーノ・コミュニティの動向や若者の進学状況、家族関係に根差した社会問題等、多岐にわたる情報を収集することができたのは大きな成果であった。
＜平成29年度＞
8月にフロリダ州とプエルトリコ自由連合州を訪問した。マイアミ大学では、キューバ・キューバ系米国人研究所のAndy Gómez 所長と貴重な意見交換をすることができたほか、多文化学生交流部で資料収集・聞き取り調査を行った。フロリダ国際大学では、図書館並びに書店で貴重な資料を入手することができた。
プエルトリコ大学では、人文学部や教育学部等で研究者らと面談を行い、プエルトリコにおけるラティーノ研究、高等教育研究の動向等について聞き取り調査を行った。サグラド・コラソン大学では人文社会学部を訪問し、学部長の Alfredo Nieves 氏らと、教員養成の実情や米国本土への若者の流出問題等について議論した。またプエルトリコ教育局においても、知事と教育局長の下で取り組まれようとしていた教育改革に関する情報を得た。

(2)国際学会での研究成果報告
平成27年度から28年度にかけての研究成果を基に、平成29年4月27日～5月1日にリマ（ペルー）で開催された米国ラテンアメリカ学会（Latin American Studies Association／事務局：ピッツバーグ大学）年次大会で研究発表を行なった。5月1日のプログラムにおいて、「ラティーノ・ディアスポラへの学際的アプローチ」をテーマに掲げるパネルの一員として、Challenges of Accelerating Latino Student Success at “Hispanic-Serving Institutions” in Southern California と題する発表を行った。発表論文（全27ページ）については、米国ラテンアメリカ学会の公式Webサイト上の *LASA 2017 Congress Papers* (https://lasa.international.pitt.edu/auth/prot/congress-papers/Past/lasa2017/) に掲載されている。
米国ラテンアメリカ学会の正会員は現在、世界各地に 12,000 名以上存在する。研究成果をそうした規模の大きな学会で報告できたことは、研究者間のネットワークを拡げ、より多くの人々に本研究課題の成果を還元することができたとも言え、極めて有意義であった。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　２件）
① 牛田 千鶴,「米国高等教育におけるラティーノ学生への多面的支援」,『アカデミア』査読無（形式的査読のみ），第 12 号，2017年１月，pp.43-56.
② Chizuru Ushida,‘Challenges of Accelerating Latino Student Success at “Hispanic-Serving Institutions” in Southern California’, *LASA 2017 Congress Papers*（Proceeding），査読無（発表者選考時の「要旨」の査読のみ），2017年11月（改訂版掲載時／初版は同年5月:いずれもデータ版），-（論文全27ページ）.

〔学会発表〕（計　１件）
発表者：牛田千鶴
学会名：米国ラテンアメリカ学会（Latin American Studies Association）
発表日時：2017年5月1日
会場：ペルー・カトリック大学（ペルー共和国リマ市）
発表題目：Challenges of Accelerating Latino Student Success at “Hispanic-Serving Institutions” in Southern California

〔図書〕（計　１　件）
2018年度中に共著の1章分として研究成果を公刊予定（浅香幸枝，幡谷則子，牛田千鶴他『多面体のラテンアメリカ：イメージと現実』（仮）行路社）。

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
牛田　千鶴　（USHIDA, Chizuru）
南山大学　外国語学部スペイン・ラテンアメリカ学科　大学院国際地域文化研究科教授

研究者番号：40319413

(2)研究分担者

(　　)

研究者番号：

(3)連携研究者

(　　)

研究者番号：

(4)研究協力者

(　　)